SOPHIA U
FOR OTHERS, WITH OTHERS

# 上智大学通信

第477号　2024年（令和6年）6月10日発行

編集・発行
上智学院総務局広報グループ
〒102－8554　東京都千代田区紀尾井町7－1
電話：03－3238－3179　FAX：03－3238－3539
www.sophia.ac.jp
[Facebook] www.facebook.com/SophiaUniversity
[X]@SophiaUniv_JP

INDEX
2 学生総務担当副学長寄稿／アフリカ Weeks ／留学フェア開催お知らせ
3 新名誉教授、新任教員紹介
4 上南戦実行委員長インタビュー

日本で
はじめて開催

## フランス発祥の視覚障害者スポーツ啓発イベント

### アスリートトークショーやパラスポーツ体験などを実施

パリ2024に向けた視覚障害者スポーツ啓発イベント「セシツアートウキョウ」を実施し、1000人以上が参加した

5月12日に、フランス国外で初となるフランス発の視覚障害者スポーツ啓発イベント「セシツアートウキョウ（CÉCITOUR TOKYO）」が四谷キャンパスで開催された。主催は本学と本学学生団体のソフィア オリンピック・パラリンピック 学生プロジェクトGo Beyond。セシツアーとは、視覚障害者スポーツの普及と関係者ネットワークの発展を目指した移動型イベントだ。今回同イベントを主催するフランスハンディスポーツ連盟のブラインドスポーツディレクターであるシャルリ・シモ氏の協力を得て、日本版セシツアーを実現する運びとなった。

オープニングセレモニーでは、Go Beyondの学生が力強く開会宣言を行い、その後はブラインドスポーツ体験やアスリートトークショー、企業・団体によるプロモーションなど視覚障害者支援に関する企画に加え、フランス語学科サークルによるチーズパーティーなどの催しが随所で実施された。

第3体育場では、イベントの目玉企画の一つである「セシリンピック」が行われた。スペシャルゲストとして元ブラインドサッカー日本代表の加藤健人選手を迎え、約100人の参加者がブラインドサッカーを体験した。最初はアイシェードという目隠しを装着するとボールに触れることすら難しかった参加者も、仲間の声かけや手拍子など音によるサポートで徐々に上達し、見えない世界でサッカーを楽しんだ。

クロージングでは、会場にいる全員がパリ2024大会のオフィシャルダンスを踊り、オリンピック・パラリンピックへの期待を膨らませた。当日は1000人以上が来場し、参加者は多くの刺激を受けた一日となった。

今回同イベントを主催した、Go Beyond代表の濵井南咲希（外英4）さんは、「誰にとってもインクルーシブなセシツアーを開催するにあたり苦難の連続でした。しかし、当日は参加者および出展団体にとって、新たな交流の機会や情報交換の場となっている様子を目にすることができ、本イベントが人々をつなぐインフラとなったことを実感できました」と振り返った。

アイシェードをしながらミニゲームを行った

全盲ドラマー酒井響希さんのドラム生演奏

ブラインドスポーツの今後について議論した

ブラインド柔道の競技体験

## インドなどアジア5カ国の高校生が理工学部のラボツアーと模擬授業に参加

5月22日、インド、韓国、タイ、ブルネイ、キルギスの各国から選抜された高校生69人が、科学技術振興機構（JST）「さくらサイエンス・ハイスクールプログラム」の一環として本学を訪れ、理工学部のラボツアーや模擬授業などに参加した。

各国からの高校生を迎えた理工学部には、地球環境問題というグローバルイシューに挑むために、授業・試験・レポート・研究指導・論文執筆のすべてが英語で行われる「グリーンサイエンスコース」と「グリーンエンジニアリングコース」が開設されており、外国人留学生と日本人学生が共に学んでいる。

ラボツアーでは、教員と学生が協働で高校生を研究室に迎え入れ、日頃の研究内容を紹介したり、実験装置や器具を見せたり、使い方を教える場面もあった。また高校生からの質問にも学生が丁寧に答え、最後に一緒に記念撮影をする研究室もあった。

情報理工学科のゴンサルベス　タッド教授による模擬授業「Current Status and the Future Possibilities of AI」（生成AIの現状と今後の可能性）では、生成AIの可能性から弱点にまで話が及び、好奇心旺盛な高校生たちから多数の質問が寄せられた。

今回の高校生訪問受入について理工英語コース運営委員長の近藤次郎教授（物質生命理工学科）は、「サイエンスに興味をもつ高校生たちが、ラボツアーのあとに目を輝かせながら見学した研究室の話を友達とシェアしていたのが印象的でした。我々教員や学生たちにとっても、自分たちの日頃の研究成果が若者たちの好奇心に火をつけ、次世代のグローバル人材の育成に貢献できる喜びを感じることができる一日になりました」と感想を語った。

ラボツアー中の記念撮影

実験装置の使い方を教わる高校生

JST「さくらサイエンス・ハイスクールプログラム」は、海外の高校生に日本の科学技術への関心を高めてもらい、日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外の優秀な人材が成長することで、グローバルな科学技術の発展に貢献することを目的としている。2022年度までの9年間で35,000人超の青少年を招聘した。

## 髙祖敏明元理事長が旭日重光章を受章

学校法人上智学院元理事長の髙祖敏明名誉教授が、令和6年春の叙勲にて「旭日重光章」を受章した。旭日重光章は、文化やスポーツ、科学技術の振興、環境保全など、社会のさまざまな分野における功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた個人に日本政府より授与される。

今回の受章は、多年にわたり上智学院理事長として、また聖心女子大学学長、文部科学省中央教育審議会専門委員などの要職を歴任してリーダーシップを発揮し、私立学校の発展と振興に尽力したことが評価されたことによる。5月9日には、宮中で行われた伝達式において内閣総理大臣から勲章・勲記が授与され、天皇陛下に拝謁してお言葉を賜った。

髙祖名誉教授は、1976年に本学文学部教育学科助手として着任。79年同学科講師、84年同助教授、91年教授。2005年からは学部改組に伴い、総合人間科学部教育学科教授。12年特別契約教授、17年特任教授、19年より本学名誉教授。

1993年から96年まで文学部長、95年から2012年までキリシタン文庫所長、1999年から2018年まで上智学院理事長、03年から09年まで上智短期大学学長、19年から23年まで聖心女子大学学長などを歴任した。